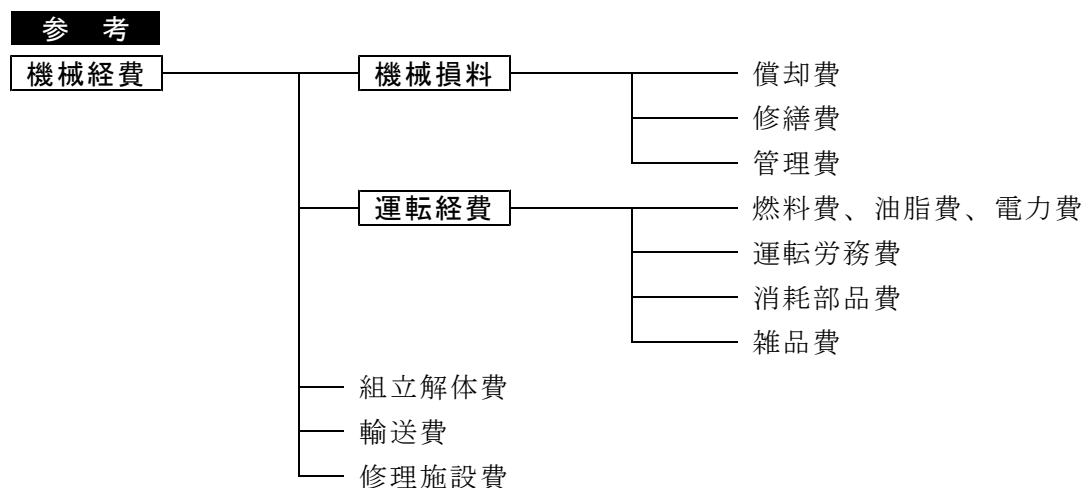


重要事項NO1

建設機械経費の構成と概要



<機械損料1>

- 1 機械経費は、①機械損料②運転経費③組立・解体費④輸送費⑤施設修理費の5つで構成される。
- 2 機械損料は、償却費、維持修理費、管理費の3つで構成されている。
- 3 運転経費は、燃料・油脂・電力費、運転労務費、消耗部品費、雑品費で構成されている。
- 4 機械損料のうちの償却費は、機械の使用又は経年による機械の経済的な価値の減価額を言う。
- 5 機械損料のうちの修繕費は、機械の効用を維持するために必要な整備及び修理の費用で運転経費以外の経費である。
- 6 機械損料のうちの管理費は、機械の保有に伴い必要となる保険料、租税公課及び格納保管等の費用である。

<運転経費>

- 7 運転経費のうち燃料費、油脂費、電力費は、建設機械の稼動に必要な軽油、ガソリン、エンジンオイル及び電力料等の費用である。
- 8 運転経費のうち運転労務費は建設機械の稼働に必要な労務費で、オペレータ、世話役、助手が対象となる。
- 9 運転経費のうち消耗部品費は建設機械の構成部品のうち、取り替えが比較的簡単で、消耗度と操業度の相関が極めて高く、作業に伴い破損、損耗が生じた際の交換部品の費用である。
- 10 運転経費のうち雑品費は各項目に含まれない少額の経費である。

<機械損料 2>

11 機械損料を構成する費用のうち

①償却費は、建設機械の使用または保有年数を経ることによるその機械の経済的価値の減価額をいい、その全体額は、機械の基礎価格（損料計算のための価格）から、その機械が耐用年数を終えて廃棄処分される際の残存価格を引いたものである。またこの費用は機械を稼働させた供用日数に比例する固定費と運転時間・日数に比例する変動費がある。

②修繕費は、建設機械の効用を維持するために必要な整備費並びに定期整備及び現場修理に要する費用をいう。運転経費に含まれる消耗部品代等は維持管理費に含まれない。建設機械の稼働状況によって増減する変動費である。

③管理費は機械の保有に伴い必要とする自賠責保険や、車両保険などの保険料、自動車税、固定資産税などの租税公課、並びに建設機械の格納保管に要する費用で、機械の稼働状況に関係なく必要とする固定費である。

建設機械の施工に関する知識

建設機械の施工

①バックホウは、バックホウアタッチメントを装備し、作業中は下部走行体を停止したままバケットを手前に引きながら主として土砂などを掘削、旋回積み込み、運搬するもので地山の掘削作業などに用いられ、機械の設置地面より低い位置での掘削に適している。

②振動（バイブロ）パイルハンマは偏心重錘を回転させることにより起振し、この起振力により上下振動を発生させ、杭周辺摩擦を低減して、鋼矢板や杭の打ち込み、引き抜きにもちいる既成杭の杭打ち機械である。

③アスファルトフィニッシャはアスファルト混合物の敷き均しに用いる機械である。下部の走行装置はクローラト式とホイール式がある。

下部はホッパ、バーフィーダ、スクリュスプレダ、スクリード装置などにより構成されている。

ホッパは混合物を受け取る装置である。

バーフィーダはホッパ内の混合物を本体後部のスクリュスプレダの前に供給する装置である。

スクリュスプレダはバーフィーダから送られてきた混合物をスクリュの回転でスクリード装置の前に全面にわたって均等に敷きならす装置である。

スクリード装置は、スクリュスプレダにより舗装面に敷き広げられた混合物を一定の高さに敷き均し締め固め平坦に仕上げる装置で、直接混合物を締め固めるスクリードプレート、スクリードプレートを加熱するヒータ、ピポットやレベリングアームなどの舗装厚調整装置（シックネスコントロール）などで構成されている。

る。

均一な締固め密度、平坦性を得るためには、スクリードプレートの作業角を適正に設定し、敷き均し速度、スクリードプレート前の混合物の量、混合物温度を一定に保ち、発進、停止の頻度を極力抑えることが必要である。

建設機械の作業効率

建設機械の作業効率

1 建設機械の作業効率に影響を与える要因

建設機械の作業効率に影響を与える要因として

- ①気象条件
- ②地形や作業場所のスペース
- ③運転員の技量
- ④建設機械の整備・管理状態
- ⑤交通条件
- ⑥工事の段取り
- ⑦土質の種類や状態等一の要因がある。